

注意点1

少し複雑に変化する
インサイド&アウトサイド

このようなトライアド・フレーズを弾く際には、3連オルタネイトによるインサイド&アウトサイド・ピッキングの逆転を理解することが大切だ(図1-a)。まずは1拍目がダウンから、2拍目がアップから弾き始めることを覚えよう。つまり2拍目はダウンで入りたくなるが、必ず2拍目はアップからスタートすること。そして次に注意するのが、インサイド&アウトサイドのミス・ピッキングだ。1拍目最後のダウンの後には、しっかりと下の弦をまたいでアップ(アウトサイド)を行ない、2拍目最初のアップの後には、上の弦に触れないように下の弦をダウン(インサイド)しよう(図1-b)。このピッキング・パターンは、さまざまなフレーズに登場するので、しっかりと軌道を右手に覚え込ませること。

図1-a 3連オルタネイト・ピッキング

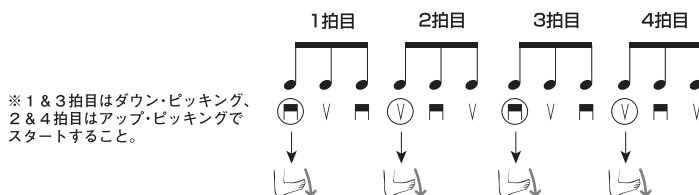
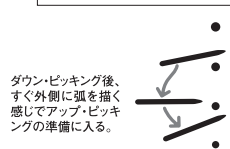


図1-b インサイド&アウトサイド・ピッキングの軌道

アウトサイド・ピッキング



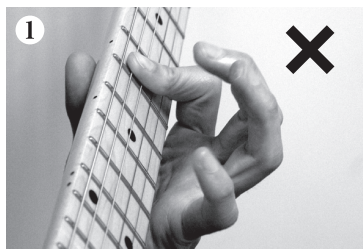
インサイド・ピッキング

① アップ・ピッキングを
気持ち外側へ。② ダウン・ピッキングは
直線的に行なう。

注意点2

人差指第1関節の
細かい動きを覚えよ!

このフレーズは、4 & 5弦のみで構成されているため、ピッキングの軌道は最後まで変わらない。つまり1小節目のピッキング・パターンを覚えれば、あとはフィンガリング・ポジションをマスターするだけでいいのだ。ここで最も注意してもらいたいのは、2小節目と3小節目の3 & 4拍目に登場するAm^(on E)の押弦だ。ここでは4 & 5弦をセーハして押さないように注意(写真①)。4弦の押弦時には、5弦を押弦していた人差指を少し浮かせるように4弦方向に移動させよう(写真③)。この時に人差指の指先で5弦をミュートすること。この人差指第1関節のみによる小さな動きは、必ずマスターしてもらいたい。



4 & 5弦をセーハで押さえると音の切れが悪くなるのでNG。



5弦の押弦。4弦は人差指の腹でミュートしよう。



4弦の押弦。5弦は人差指の指先でミュートすること。

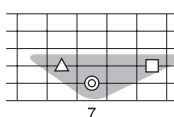
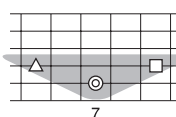
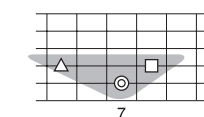
～コラム12～

地獄の戯れ言

トライアドとは日本語で三声(和音)と呼ばれ、“ルート・3度・5度”の3つの構成音で成り立っているコードのこと。これをさまざまなテクニックを用いて分散させながら弾くことで、メロディアスなフレーズを作ることができる。まずは、トライアドの基本形を覚えよう(図2)。メジャー・トライアドに対してマイナー・トライアドは、3度が半音下がっている。また、マイナー・トライアドに対してディミニッシュ・トライアドは、5度が半音下がっている。それぞれ形が微妙に違うが、しっかりと名前と形を覚えよう。ルートを変えれば、どんなコードにも対応できるので、いろいろなポジションで試してもらいたい。

三角形がメロディを変える!
トライアドの基本形を学ぼう

図2 3つのトライアド・コード図

メジャー・トライアド
(例:Eメジャー)◎ ルート音=E
△ 3度音=G#
□ 5度音=Bマイナー・トライアド
(例:Eマイナー)◎ ルート音=E
△ 3度音=G
□ 5度音=Bディミニッシュ・トライアド
(例:Eディミニッシュ)◎ ルート音=E
△ 3度音=F#
□ 5度音=B